

## 8月29日午前5時58分ごろ、北朝鮮が平壤市郊外の順安から弾道ミサイルを発射

防衛省によると8月29日午前5時58分ごろ、北朝鮮が平壤市郊外の順安から弾道ミサイルを発射。午前6時5分頃から7分頃にかけて北海道の渡島半島と襟裳岬の上空を通過し、午前6時12分頃、襟裳岬の東約1180kmの太平洋に落下しました。飛翔距離は約2700km、最大到達高度は約550kmで飛行時間は14分間。通常軌道で発射された中距離弾道弾と見られ、火星12号あるいはムスダンである可能性が高いと推定されています。(※8月30日追記:北朝鮮が火星12号発射訓練と声明を発表)

そして日本政府は北朝鮮のミサイル発射を知らせるJアラート(全国瞬時警報システム)を午前6時2分に流しました。今回の配信の対象地域は東北や北海道を含む12道県です。Jアラートはミサイルが日本に向かって発射された際に警報が鳴らされるもので、結果的に日本領土や領海に着弾しない場合でも実施されます。これは弾道ミサイルが発射直後の加速中の段階では正確な着弾地点が推定できず、しかし正確な計測が出来るまで待っていると警報が間に合わなくなる恐れがあるからです。

- ・午前5時58分、ミサイル発射。
  - ・午前6時02分、Jアラートで警報。
  - ・午前6時05分、北海道の渡島半島を通過。
  - ・午前6時06分頃 携帯メール受信と思われる時刻 (メール配信にはシステム上3-4分の猶予時間がかかる。)
  - ・午前6時07分、北海道の襟裳岬を通過。
  - ・午前6時12分、襟裳岬の東1180km沖合に着水。
- 「NHK NEWS WEBから」

今回は通常軌道で発射されたため、日本を狙ったノン準中距離弾道ミサイルなのか、もっと遠くを飛べる中距離弾道ミサイル以上の射程なのかは判別は難しい状況です。しかし日本海に着弾する可能性は早い時点で消えていました。もしノンだった場合は火星12号など中距離弾道ミサイルよりは若干速度が遅く、渡島半島への着弾予想時刻は午前6時7分～午前6時8分前後になっていたでしょう。5分の猶予を与えるためには、午前6時2分のJアラート配信はぎりぎりの決断だったと言えます。

前回の7月28日深夜に北朝鮮がICBMである火星14号を発射し、北海道積丹半島の西約200kmの日本の排他的経済水域(EEZ)に着弾させた際は、長射程弾道ミサイルの極端な山なりのロフトッド軌道だったので45分間も飛行しており、正確な着弾位置を計算してから警報を出しても間に合う猶予があったのでJアラートは配信されていません。この時の火星14号は日本に届くような加速を継続しておらず手前に落ちたので、着弾するか飛び越えるかという判断よりは容易に区別が付くものでした。(日本に届くだけの加速を継続して初めてJアラートを鳴らす)

今回は結果的に日本領土への着弾は有りませんが、もし着弾するような危機が発生した場合でもJアラートの配信は時間的に間に合うことが証明できました。弾道ミサイル空襲警報としては、これ以上の速い配信は困難でしょう。発射自体は直後に早期警戒衛星が捉えている筈ですが、この時点では脅威度の低い対象も含めて警報を出すことになるので、現実的ではないからです。

「NHKのWEBニュースで「もし着弾するような危機が発生した場合でもJアラートの配信は時間的に間に合うことが証明できました。弾道ミサイル空襲警報としては、これ以上の速い配信は困難としている。」

(現実には使えないことになる。曖昧な表現を取っている点に注意したい。)

### 北朝鮮のミサイルが日本上空を通過

北朝鮮は29日早朝、同国西岸から弾道ミサイル1発を発射した。ミサイルは日本上空を通過し、北海道襟裳岬の東方約1180キロの太平洋に落下した。



韓国の上空を通過すればもっと短時間で着弾する。

## 9月15日午前5時58分ごろ、北朝鮮が平壤市郊外の順安から弾道ミサイル発射

また行われた北朝鮮による日本上空を通過する弾道ミサイルの発射。先月29日に次ぐ暴挙で、今月3日には6回目となる核実験を行うなど北朝鮮は挑発行動を繰り返しています。ミサイル発射のたびに、戦時中の「空襲警報」のようなJアラートが繰り返される日常。戦後生まれの世代は戸惑いを覚えます。何を学び、どう行動すればよいのでしょうか。

(ネットワーク報道部記者 宮脇麻樹 栗原岳史 佐伯敏)

今回の弾道ミサイルについて、政府は日本時間の午前6時57分ごろピョンヤンの郊外から発射され、7時4分ごろから6分ごろに北海道上空を通過したと発表しました。午前7時にJアラート＝全国瞬時警報システムで北朝鮮からミサイルが発射された模様だと伝え、そして7時7分には北海道地方から16分に襟裳岬の東2200km沖合に着水。「NHK NEWS WEBから」

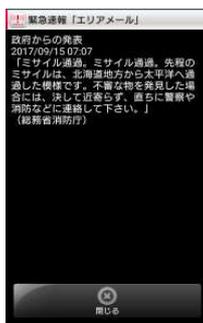
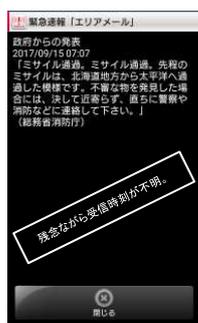
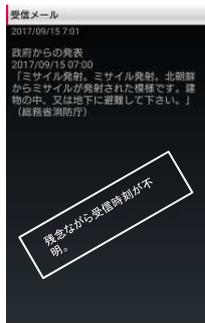
太平洋内閣官房の「国民保護ポータルサイト」ではミサイルが飛来した際の対処方法を説明しています。

- ▼建物の中または地下に避難する
- ▼近くに適当な建物がない場合は物陰に身を隠すか地面に伏せ頭部を守る
- ▼行政の指示に従って落ち着いて行動するなど求めています。

一方、政府は先月、北朝鮮が日本上空を通過する弾道ミサイルを発射した際、Jアラート＝全国瞬時警報システムで緊急情報を発信しましたが「どこに避難したらいいかわからない」といった批判を受けてメッセージを見直しました。

例えば、北陸地方から関東地方の上空を通過した場合は「関東地方から太平洋へ通過した模様」などと最後に通過した地域名とミサイルが向かった方向を入れるようにしたほか、避難先について「頑丈な建物や地下」としていたのを「建物の中または地下」と改めました。へ通過した模様だと伝えました。

- ・午前6時57分、ミサイル発射。
- ・午前7時01分、Jアラートで警報。  
午前7時03分国土交通省が航空各社や周辺を飛行する航空機に注意喚起
- ・午前7時04分～06分頃北海道の上空を通過。  
**午前7時05分頃 携帯メール第1報 受信と思われる時刻。**  
**午前7時11分頃 携帯メール通過メール受信と思われる時刻。**
- ・午前7時16分頃、襟裳岬の東2200km沖合に着水。



メールの受信時刻のデータが取れていない。  
総務省消防庁の情報は7:01に配信しているが受信時刻がわからない。発射4分で情報キャッチその後5分程度経たずして伝達される。  
合計発射から9分となると北海道の上空はすでに通過している。  
その対策が必要。

